



時は16XX年

このまちを治めていた戦国武将【古井 元成（ふるい もとなり）】は、この町に対する愛情が非常に強く、『このまちを守るために必要なものなんだ』と言って大切にしていた財宝があった。

ぼくの名前は【神宮寺 守（じんぐうじ まもる）】

同じ職場の憧れの【メイ】に想いを寄せるも、気持ちを伝えられずにいる普通のサラリーマンだ。謎解きが好きな【メイ】のおかげで、いつもトラブルに巻き込まれがちである。

今日は、やっとの思いで、憧れの【メイ】を食事に誘うことができた約束の日。

神宮寺 「いい朝だな…」

太陽の光を浴びようと部屋のカーテンを開けたとき、電話が鳴っていることに気づいた。

古くからの友人【古井 舞造（ふるい まいぞう）】からだった。

古井 「まもる、おはよう！久しぶりだね。

少し相談したいことがあって、これから会えないかな。」

約束の時間まで十分に時間があるので、ぼくは話を聞きに行くことにした。

【メイ】との食事に向けて準備をしたいぼくは、早速本題を尋ねることにした。

神宮寺 「話ってなんだい」

古井 「それがね。俺の家に先祖代々伝わる財宝があるんだけど、それを一度見てみたいんだ。親友のまもるも一緒に見てもらおうと思ってるんだけど！」

神宮寺 「かまわないけど、その財宝ってどこにあるんだい？」

古井 「それが…。知らないんだ。」

神宮寺 「！」

“一緒に見てもらおう”ではなくて、“一緒に探してほしい”ということではないだろうか。

嫌な予感がある。今日は、【メイ】との食事の約束があるというのに。

古井 「それでさ、俺の先祖の【古井 元成（ふるい もとなり）】って人の“伝記”に、財宝のありかが書いてあるみたいなんだよ。」

神宮寺 「あ…。まさか、一緒に“伝記”を借りに行こうなんて言わないよね…。」

古井 「さすがまもる！そうと決まれば、早速行ってみようよ！」

時間ばかりが気になって、気が乗らないものの、【古井】の勢いに押されるままに、“伝記”を借りにきてしまった。伝記を読み進めると、『我が財宝のありかは』という部分でページが変わる。ページをめくる。

神宮寺・古井 「！」

最後のページが破りとられていた。

古井 「これってもしかして、俺たち以外の誰かが、財宝のことをかぎつけて、財宝を狙っているってことじゃないかな！たのむよ、まもる！財宝が奪われないようにいち早く場所を特定して、財宝を守ってよ！」

僕は正義のヒーローではないんだけどな…:~:~:~:と思いつつも、友人の頼みを断ることはできず、探してあげることになった。

“伝記”の中には、見慣れたカードが挟まっていた。

『残念ながら、財宝のありかを記したページはなかったみたいだね。』

さて、私も財宝のありかの手がかりを求めて、

まずはこの場所に行ってみることにするよ 怪盗M 『

どうやら【怪盗M（かいとう えむ）】も、この財宝を狙っているようで、まんまと先を越されてしまった。まずは【怪盗M】のあとを追うために、初めに向かうべき場所を解説することにした。

ヒントはこちら！

【初級編】問題I→ヒント10  
【上級編】問題A→ヒント3



ひとつめの挑戦状を何とか解説し、【怪盗M】(かいとう えむ)が向かったという場所へたどり着いた。しかし、そこにはすでに【怪盗N】(かいとう えむ)の姿はなかった。

言われるがままに、あとを追ってきたものの、手がかりとなるものは何も見当たらない。

いつもなら、先回りしている【怪盗M】(かいとう えむ)の行き先を示してくれる。挑戦状があるものだが、それも見当たらない。

手がかりがなくなった僕は、“伝記”を読み返してみた。

この“伝記”には、“貸出カード”が挟まっている。

誰かが借りたようだ。

古井 「最後にこの“伝記”を借りた人に、話を聞いてみれば、何かわかるかもしれないね。」

【古井(ふるい)】の言うとおり、“貸出カード”に目を通す。

神宮寺 「！」

目を疑った。

最後に借りたのは、ほかでもない、今日ぼくが会う約束をしている【メイ】であった。

約束の時間よりもずいぶん早くから会えることを少しラッキーに思いながら、【メイ】に話を聞きに行くことにした。

神宮寺 「貸し出しカードにメイさんの名前があるなんて、

少し目を疑ったね。

ここからは、ぼくひとりで探してみるよ。

財宝の場所がわかったら連絡するね。」

そういつて僕は【古井(ふるい)】と別れることにした。

せっかくの【メイ】との時間を邪魔されるわけにはいかないので。

神宮寺 「もしもし、メイさん。

少し聞きたいことがあって。

約束の時間には、ずいぶん早いんだけど、

もし都合がよければ、今からでも会えないかな。

どこにいるか教えてくれませんか？」

メイ 「神宮寺くん、こんにちは。ちょうど約束の時間まで、時間をつぶしていたところなの。

ところで神宮寺くん。

さっき送ってくれたメッセージ、私の名前の文字が間違っていたわよ！

私、アイじゃないわ！

またあとでメッセージを送っておくわね。」

どうやらぼくは、とんだ間違いをしてメッセージを送っていたようだ。

【メイ】はすぐに『私はここにいます』というメッセージとひとつの画像を送ってくれたが、居場所はその画像が示す意味を解説しなければならぬようだ。

謎好きな【メイ】らしい。

直接教えてくれなかったのは、少し怒っていたからだろうか。

ひとまず、メイのいる場所を解説し、メイに会いに行くことに。伝記について何か知っているといんだが。



ヒントはこちら！

[初級編]問題Ⅱ⇒ヒント13  
| 上級編 | 問題B⇒ヒント24  
問題α⇒ヒント27

## 第3話「財宝のもうひとつの謎」

神宮寺 「メイさん。とても失礼なことをしてしまいました。

ごめんなさい。」

今のぼくにとっては伝記のことを聞くよりも、【メイ】にしっかり謝ることのほうが大切であった。

メイ 「いいわよ。」

そんなに気にしてないもの。

それより、神宮寺くん、聞きたいことって何？」

【メイ】が怒っていなかったことに安心しきっていたぼくは、本題を聞き忘れていた。

ひとつ終わったらひとつ忘れる、ぼくの悪い癖だ。

神宮寺 「そうそう、最近【古井 元成（ふるい もとなり）】という戦国武将の伝記を借りて読みましたか？」

メイ 「その伝記は確かに借りたけど、すぐに返してしまっただけだからあまり覚えていないの。

でも、どこかで見たことがあるような図形や王様とか女王様とか何とか書いてあった気がするわ」

ぼくは、伝記を読み返してみるが、メイの言う図形や王様のことは見当たらない。

きつと破りとられた1ページに描いてあったのだろう。

メイ 「そういえば、このまちの歴史に詳しくて、私にあの伝記を紹介してくれた、

歴史学者さんに話を聞いてみたら？

何かわかるかもしれないわね。

たしか名前は、武樫野さんだったかしら。」

約束の時間まで街をブラブラすると言って、【メイ】は商店街に向かって歩いていった。

ぼくは、次のわずかな手がかりを求め、歴史学者【武樫野 白兵衛（むかしの しらべえ）】を尋ねた。

神宮寺 「こんにちは。」

む、武樫野さんですか？」

??? 「はい、そうです。」

神宮寺 「突然すみません。」

このまちの歴史に詳しくと聞いたもので。

『古井 元成』という武将にまつわる財宝について、何か教えてもらえませんか？」

武樫野 「財宝そのものは見たことはないが、噂は聞いたことがあるぞ。」

『その財宝が力を発揮するとき、この地域に業火（ごうか）が訪れるであろう』との迷信があるみたいだね」

神宮寺 「ご、『業火』って、大火事とかのことですよね!？」

何か悪いことに使われたら大変です！

武樫野さん！もつと詳しく教えて下さい!!!」

武樫野 「私も、この迷信は、何かの紙看板で見かけたものなので、これ以上詳しくは……。」

神宮寺 「武樫野さん、

さすがに今の時代、紙看板とは言わないですよ……。」

武樫野 「ははは。そうだね。」

そういえば、『詳しく知りたくなったらここにくるように』とメモが紙看板に貼ってありまし

たよ。」

そうやって、【武樫野（むかしの）】はぼくにひとつのメモを渡してくれた。

このメモが示すところにも、手がかりがある可能性が。

わずかでも手がかりを探し、メモの解読を試みた。

ヒントはこちら！

[初級編]問題Ⅲ⇒ヒント4  
I上級編I問題C⇒ヒント28  
問題β⇒ヒント22



ぼくは、【武極野 白兵衛（むかしの しらべえ）】からもらった“メモ”を解読し、とある場所へ辿り着いた。まずは、何か手がかりになるものがないか、周辺をくまなく探してみることにした。  
 ??? 「こらー！」

そこで何をしているの？

悪いことをしようとしているなら、今すぐ敷地から出ておいき！」

遠くからものすごい勢いで、女性の声が迫ってきた。

勢いのまま、追い出されそうになる。

財宝を探していることを伝えると、何とか理解してもらうことができた。

城尾 「わたくしは、この城で管理人をしている【城尾 美晴（しろお みはる）】と言います。

先ほどの失礼をどうかお許しください。」

お城の管理人であれば、何か知っているかもしれないと思い、ついさつき聞いた“迷信”のことも聞いてみた。

神宮寺 「その財宝が力を発揮するとき、

この地域に業火（ごうか）が訪れるであろう』

という、すごく危険な迷信があるみたいなんですけど、

そんな財宝や迷信について、何か知っていませんか？」

城尾 「わたくしは、その財宝を見たことはございませんが、

そんな危険極まりないものだと聞いたことはございません。」

神宮寺 「その財宝は、今はここにはないんですよ？」

城尾 「ええ。

財宝は、もともとこの場所にはございません。

もちろんわたくしも調べているのですが、詳しいことはわからないままなんです。

お力になれずすみません。」

神宮寺 「そうですか…。」

ここまで来たものの、ついに手がかりを失ってしまった。

ぼくは落胆し、視線を落とした。

神宮寺 「ちよっと城尾さん！

これって、昔から書いてあるものですか!？」

落とした視線の先にあったのは、地面に描かれた図形のようなものだった。

城尾 「いえ、昨日わたくしがここを通った際には、このような図形はございませんでした。」

これもどこかの場所を示しているのかもしれないと、【神宮寺（じんぐうじ）】は図形の解読を急いだ。

ヒントはこちら！

[初級編]問題Ⅳ⇒ヒント21  
 | 上級編 | 問題D⇒ヒント6  
 問題ア⇒ヒント19



わずかな手がかりも逃すまいと、地面に描かれた図形が意味する場所へやってきた。そこには、『財宝のありか』と『財宝の入った箱を開ける呪文』を導くための言葉がつづられた挑戦状が置かれていた。そう、【怪盗M】からの挑戦状だ。疲れきった頭を奮い起こし、思考をめぐらせた。

.....!

置かれていた挑戦状を解読し、財宝のありかと言われる場所を探す。古びた木箱が出てきた。

もうひとつの挑戦状の指示どおりの呪文を唱えると、確かに古びた木箱は開いた。開いたのだが……。

ぼくは目を疑った。

神宮寺「こ、これが。財宝なんだろうか……」

箱の中から出てきたものは、『片手を挙げ』『もう片方の手には小判をもった』『猫』

誰がどう見ても、『招き猫』だ。

神宮寺「そういうことだったのか!」

今日は勘が冴えている。

歴史学者の【武檉野 白兵衛(むかしの しらべえ)】が言っていた「ごうかがおとずれる」は、『業火が訪れる』ではなく、この地域の発展を願った『豪華が訪れる』という意味だったのであろう。財宝を探していた【古井】に見つけたことを伝えてあげなければ。

あたりを見渡すと、そこにはすでに【古井】の姿が。

それに、今日話を聞くために会った人たちは、財宝のありかを導くための要所にいたことになる。財宝のことを知らなかったのは、自分ひとりだけだったのではないだろうか。

少し、すっきりしないこともあるが、今日はそれよりも大切なことがある。

日も沈みかけ、すっかり夕方になってしまった。

約束の場所へと急ぐ。

何とか約束の時間にも間に合い、【メイ】と合流することができた。

神宮寺「メイさん、お昼は急に呼び出してごめんなさい。」

メイ「かまいませんよ。探していた“財宝”は『招き猫』だったみたいですね」

神宮寺「!」

途中で別れたはずの【メイ】が財宝の正体を知っていることが不思議でならなかった。

しかし今日は、念願の初デート。

変なことを聞いて【メイ】の気分を害すわけにはいかない。

それ以上は何も聞かず、【メイ】との時間を楽しむことにしたぼくは、

足元に落ちていた“破られた1枚の紙切れ”に気づくことはなかった……。

END

ヒントはこちら!

| 上級編 | 問題 0 ⇒ ヒント 16



## ヒントのページ

番号	ヒント内容	さらにヒント
ヒント1	『て』『お』『げ』は何かの頭文字だね	ヒント25へ
ヒント2	広く知らしめるもの 第2話で歴史好きな【武榎野（むかしの）】さんが、このことを言っているような…	ヒント5へ
ヒント3	第1話の最後の一文が…	ヒント15へ
ヒント4	今、実際に手に持っているものは？	ヒント2へ
ヒント5	ぴったりと重なるとつながるものが…	
ヒント6	「てもち」の中にもヒントあり	ヒント26へ
ヒント7	どこかに同じ記号が隠れているはず	ヒント32へ
ヒント8	『女王様が届かぬところ』は『騎士が届くところ』	ヒント20へ
ヒント9	第4話のシチュエーションも何かのヒントかな…	ヒント1へ
ヒント10	迷路をたどると…	
ヒント11	疑わしいものを形として捉えて隠してみよう	
ヒント12	第2話の【メイ】のセリフが、選択肢をひとつ消してくれている	ヒント18へ
ヒント13	声に出して読んでみよう	
ヒント14	横読みではありません	
ヒント15	『に6ゅうもじめ』＝『二十文字目』	
ヒント16	カナに変換してみよう	ヒント7へ
ヒント17	1030mm×728mmは何かのサイズ 近くにはないかな そこに隠れる矢印をが英字の中に…	
ヒント18	第2話で【神宮寺】が初めから何かを疑っているね	ヒント11へ
ヒント19	アルファベットに直して読んでみよう	ヒント9へ
ヒント20	動き方に注目しよう	
ヒント21	何か似た形がどこかに2つないだろうか	
ヒント22	1030×728は何かのサイズ	ヒント17へ
ヒント23	さらに、どこかにも女王様が何に関係するものか教えてくれるものが	ヒント8へ
ヒント24	読み方や考え方はいろいろ。何を隠すのだろうか	ヒント12へ
ヒント25	『て』＝『天主閣』だとすると…？ 『日本3大○』のひとつといわれているようです	
ヒント26	わざと逆から書いてある…？	ヒント31へ
ヒント27	カードは並び替えません	ヒント14へ
ヒント28	第3話で【メイ】が言うには、伝記に何か情報があったと言っているね	ヒント23へ
ヒント29	星は○○○○ 50音で考えてみよう	
ヒント30	「ある人が征夷大將軍に任命された際に遺した」と言われています	
ヒント31	仮名で埋めてみよう	
ヒント32	最後のキーワード（呪文）は、これまで導いたものに隠される指示に従おう	ヒント29へ